

# 特集：佐呂間町初のプロ野球選手！

## 北海道日本ハムファイターズ

# 玉井 大翔 #54 投手

### 佐呂間町初のプロ野球選手の誕生

玉井大翔投手が、平成28年10月20日、ドラフト会議で北海道日本ハムファイターズから8位指名を受け、プロ野球選手になりたい”という小学生の頃から、諦めず追い求めた夢を叶え、プロの世界へのスタートラインに立った。

初のプロ野球選手の誕生という嬉しい話題に佐呂間町は、大きな喜びに包まれました。

そして、11月25日、玉井投手の『入団をお祝いするセレモニー』を地元野球協会主催で開催。玉井投手の凱旋帰町に大いに沸きました。

#### 父と兄の影響で野球の道へ

玉井投手が野球を始めたのは、小学校1年生のとき。父と兄の影響で地元少年野球チーム『佐呂間ライオンズ』に入団。



【玉井大翔投手（写真右）と父の伸一さん（写真左）。】

監督を務める父の指導のもと親子で野球に励んだ。

このとき思い描いた大きな夢、プロ野球選手になりたい”この夢を叶えるため、地道な努力を続けた。

#### 高校時代の悔しい思いがあったからこそ今がある

中学卒業後は、佐呂間町を離れ、高校野球の名門旭川実業に進学し

悔しい思いもしたが、  
諦めず挑戦し続ければ  
“夢”は叶う。



た。高校三年生の時には甲子園に出場するも登板の機会はなく、旭川実業高校は敗退し、玉井投手の高校野球は幕を閉じました。

しかし、試合に出られなくても、ひたむきに努力した高校時代があったからこそ、その後の野球人生を切り開く強さを身につけたのではないだろうか。事実、玉井投手は、本誌の「高校・大学・社会人で野球をやってきた印象に残っていることは」という質問に対して、「高校の頃に甲子園に出場できたことが一番の思い出、佐呂間町出身の2人の選





プロに入れたことが全てではなく、これからが勝負。常に志を高く持って、まずは1軍に上がり、北海道で投げている姿を町民の方々に見てもらえるように頑張っていきます。

手と「佐呂間を離れて頑張ってきたよかったね」と話したことは今でも思い出に残っている」と高校時代を野球人生の一番の思い出に挙げ、前述の『入団セレモニー』でも、参加した中学生に対し、「高校のときは、試合にも出られず悔しい思いをしましたが、それでも夢を諦めず追い続けた結果がこうやってプロ野球に入ることができました。皆さんも、いろんなことに挑戦して頑張ってください。」と、どんなに悔しい思いをしても、諦めず夢を追い続けければ、

夢は叶うと、力強いメッセージをくれました。

### ● 才能を開花させた大学野球 ●

東京農大オホーツクに進んだ玉井投手は、道六大学野球で、一年生投手としては史上初の快挙となるノーヒットノーランでの勝利という鮮烈デビューを飾り、その後も四年生の時に明治神宮大会でチームがベスト4入りする立役者となる活躍をした。4年間の大学野球時代で最高殊勲選



手に3回選ばれ、プロ野球のスカウトも注目する選手として成長した。

### ● プロ野球を目指し 社会人野球で武者修行 そしてプロ野球へ ●

「より高いステージで自分を高めたい」という理由で大学卒業時にはプロ志望届を出さず、全国から甲子園出場経験者らが集まる、社会人野球の強豪チーム、新日鉄住金かずさマジックに入団。



【プロフィール】  
玉井 大翔（たまい たいしょう）  
ポジション：投手  
生年月日：1992年6月16日  
出身地：佐呂間町  
経歴：佐呂間小学校～佐呂間中学校～旭川実業高校～東京農大オホーツク～新日鉄住金かずさマジック～北海道日本ハムファイターズ（ドラフト8位、背番号54）

2015年シーズンの日本選手権で1勝、2016年シーズンの夏の都市対抗野球1回戦で先発し、好投。前述のドラフト会議で北海道日本ハムファイターズの指名を受け、佐呂間町初のプロ野球選手「玉井大翔」が誕生した。小学生のころ思い描いた大きな夢は、今、実を結び、玉井投手は次のステージに挑戦する。これから玉井投手が私達に見せてくれる「夢の舞台」での活躍に期待が膨らむばかりだ。